

[Executive Intelligence Briefing]

生成AI特許のパラダイムシフトと知財覇権

日本企業の知財・事業戦略の深層と「主権AI」への羅針盤

Executive Summary: 3つの要諦



The Macro Shift

特許爆発と独占フェーズ

24ヶ月で56,000件超過。基礎研究から「社会実装・排他的独占」へと戦場が完全に移行。



The Strategic Divergence

3つの生存戦略

SBG（面的制圧）、PFN（垂直統合）、Sakana AI（自己進化）。トップAIプレイヤーの戦略は三者三様に分岐。



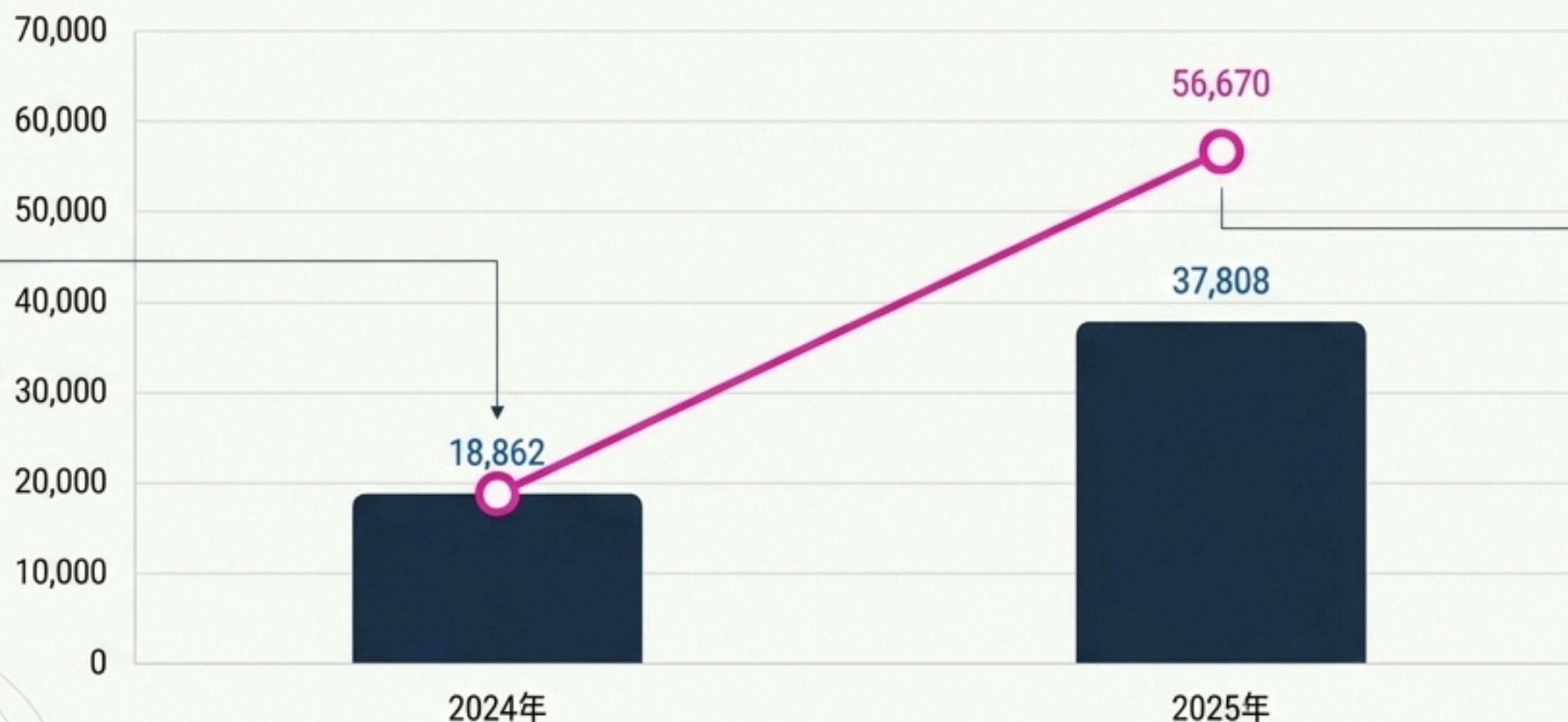
The Imperative

プロフィットセンター化

知財部門を「防御・コスト」から、M&AやR&Dを牽引する「探索・プロフィット」の心臓部へ転換せよ。

Macro Trend: 生成AI特許の歴史的爆発

■ 年間新規公開件数 (New Publications) — 累積公開件数 (Cumulative)



Annotation Box 1

わずか24ヶ月で特許公開件数が前年比倍増
(18,862件 → 37,808件)。

HUD annotation Box 2

R&D・PoCフェーズの終焉。
実ビジネス領域における
「陣取り合戦」への不可
逆的移行。

WIPOおよび独自集計データが示す歴史的転換点。
単年で全生成AI特許の25%以上が公開される技術爆発。

Regulatory & Governance: 法務リスクと保護プロセス

The ELN Shield (電子実験ノートの盾)



JPO AIビジョン & グローバル連携

- 3つの原則: 人間中心、セキュリティ、説明責任
- 三極AIビジョン: 2025年10月、日米欧の三極特許庁による合意。自然人のみ発明者とするルールを国際標準へ。

**[Archetype 1]
SoftBank Group**

資本と量による「群戦略」

**[Archetype 2]
Preferred Networks**

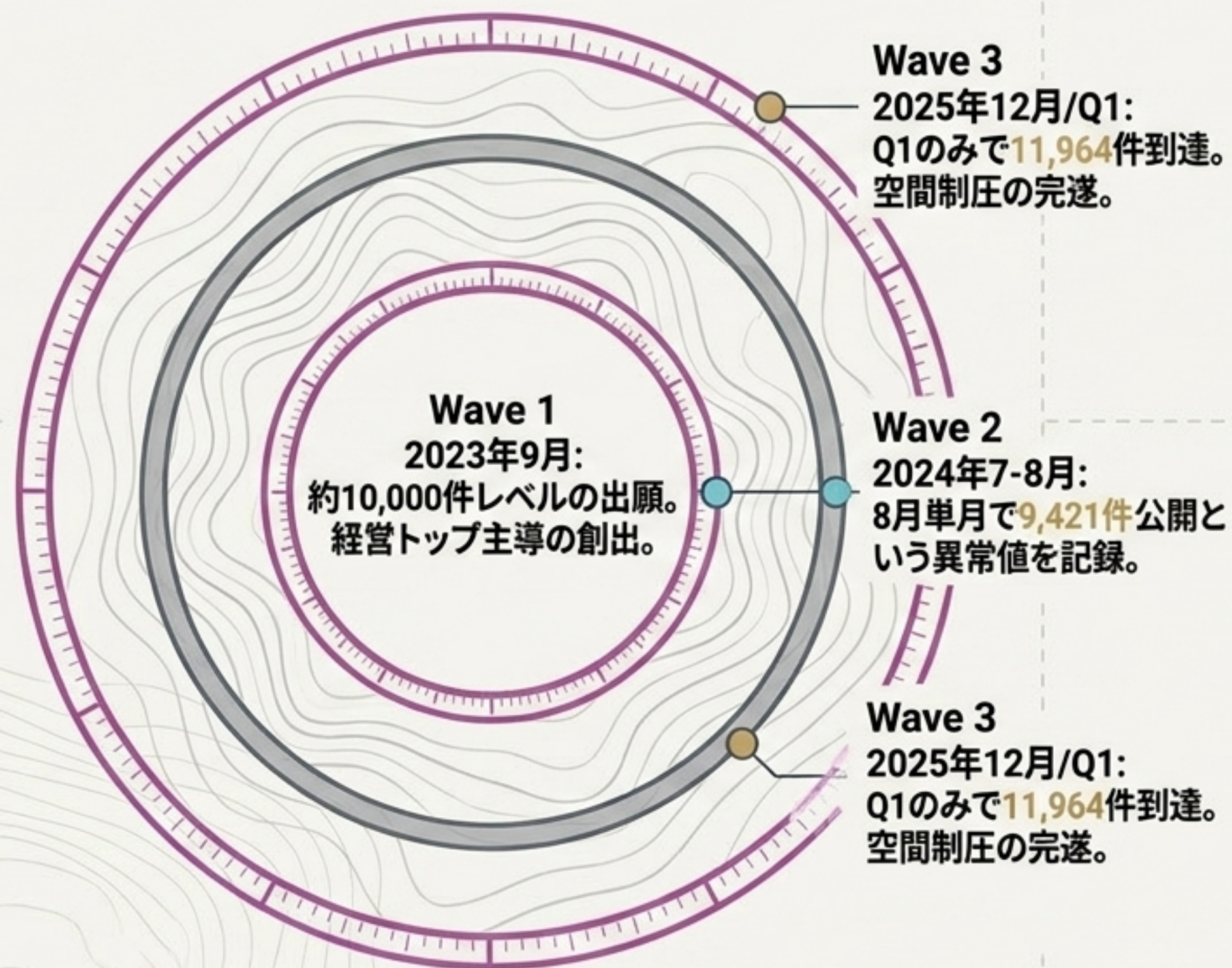
経済安全保障のための「垂直統合」

次世代インフラ
を巡る、
3つの「異質な」
生存戦略

**[Archetype 3]
Sakana AI**

自己進化と「オープンエコシステム」

Archetype 1: SoftBank Group (SBG)



Core Strategy Box 「群戦略」とASI包囲網

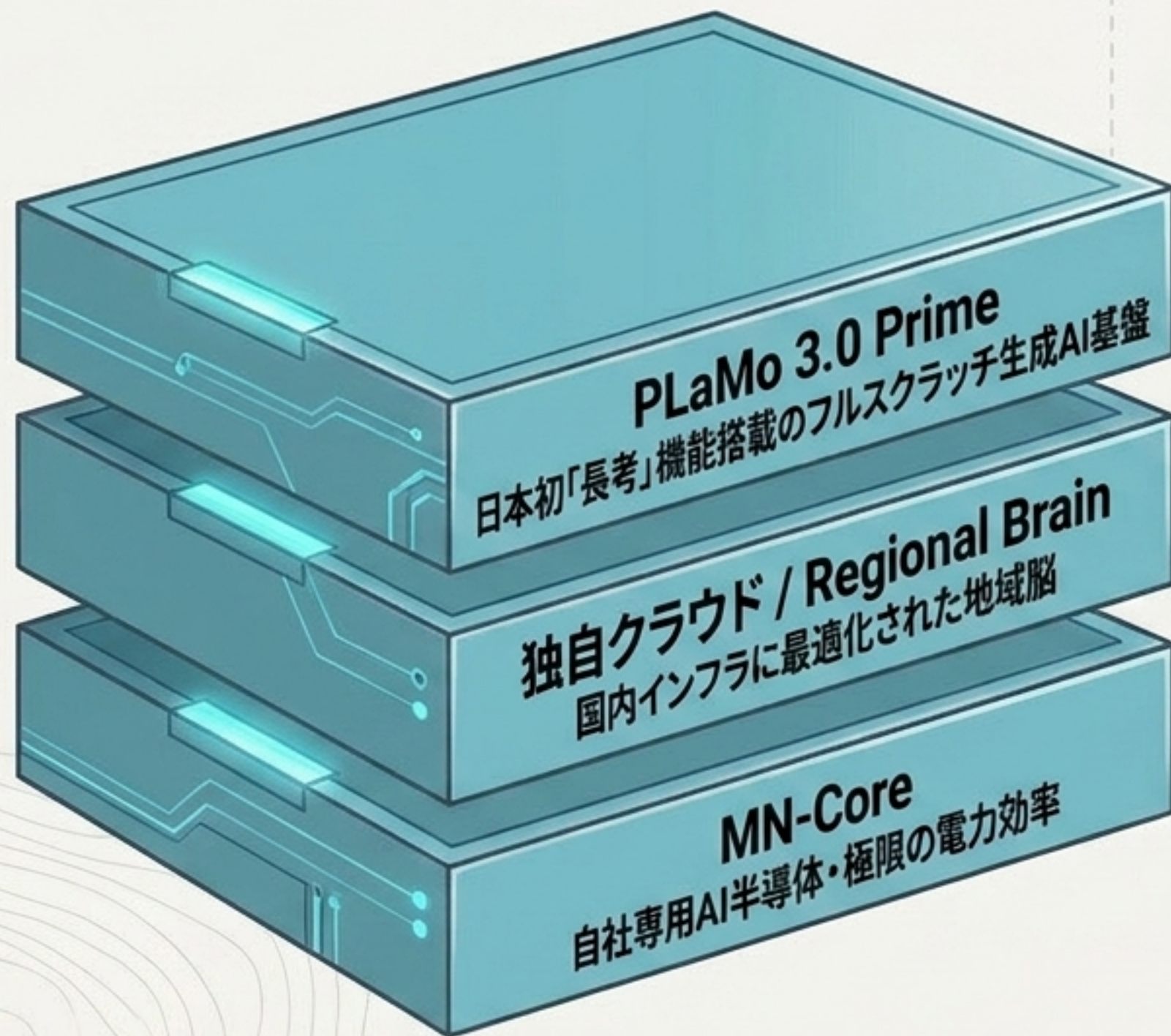
Target Domains



Objective

次世代AI社会の基盤技術を多層的に制圧し、M&Aやプロフィットセンター化を圧倒的優位に進める。

Archetype 2: Preferred Networks (PFN)



Core Strategy Box

経済安全保障と「完全垂直統合」

Imperative

- デジタル赤字の排除、日本語の文化的リスク回避、国家安全保障上のリスク完全排除。

Objective

海外プラットフォーマーのアーキテクチャに一切依存しない、ゼロからの純国産フルスタックインフラの提供。

Archetype 3: Sakana AI

Möbius Strip / Infinity Loop



Agile Milestones & Approach

Models: Namazu (日本特化), Sakana Fugu (マルチエージェント), Sakana Marlin, The AI Scientist (レベル3領域).

Approach: 事前学習への巨額投資を回避。広大なオープンウェイトに対する「事後学習」と「進化的モデルマージ」。

The IP Anomaly (知財の特異点)

圧倒的な出願数の絞り込み（26年上期特許公開わずか17件）。排他権の確保よりも、OSS・コミュニティ貢献を通じた「世界最高峰の人材獲得」と技術的プレゼンスを最優先する戦略。

The Master Synthesis: 戦略診断マトリックス

	[SBG]	[PFN]	[Sakana AI]
Core Approach (中核アプローチ)	「群戦略」に基づく 多層制圧	「完全自前主義」 フルスタック垂直統合	アジャイル・ オープンエコシステム
IP Strategy (知財戦略)	万単位の波状大量出願 (面的領域支配)	秘匿化と純国産 インフラの確保	特許数より技術的 プレゼンスと人材獲得
Geopolitical Stance (地政学的対応)	ASI覇権を通じた世界的 プレゼンス確保	デジタル赤字とセキュリティ リスクの完全排除	マルチエージェント設計等による アクセス遮断リスク回避
Key Tech (キーテクノロジー)	次世代OS・ロボティクス 制御・感情認識	MN-Coreハードウェアから PLaMoまで	事後学習・進化的モデル マージ・DGM

Geopolitics: ソブリンAIと次世代インフラの地政学

Top-Down Defense (PFN型)

Threat:

膨大な資本流出（デジタル赤字）、電力インフラ制約、海外ベンダーへのデータ依存。

Solution: シリコンレベル（MN-Core等）からの自国産アーキテクチャ構築によるインフラ独立性の確保。

Bottom-Up Agility (Sakana型)

Threat:

数千億円規模の事前学習競争による米中メガテックの寡占化とAPI利用制限リスク。

Solution: オープンウェイトモデルの事後学習による、圧倒的低コストでの国内コントロール可能なAIの構築。

Sovereign AI (主権AI)

国家戦略としてのソブリンAI確立には、
この双方向のアプローチが不可欠である。

R&D Transformation: AIによる発明プロセスの劇的変革

Materials Informatics (MI) & Design



生成AIが分子構造を解析。異種材料間の高機能接着剤（高温耐性、自己修復、形状記憶）の設計時間を劇的短縮。

実例：住友化学「ChatSCC」、パナソニックのモーター設計。

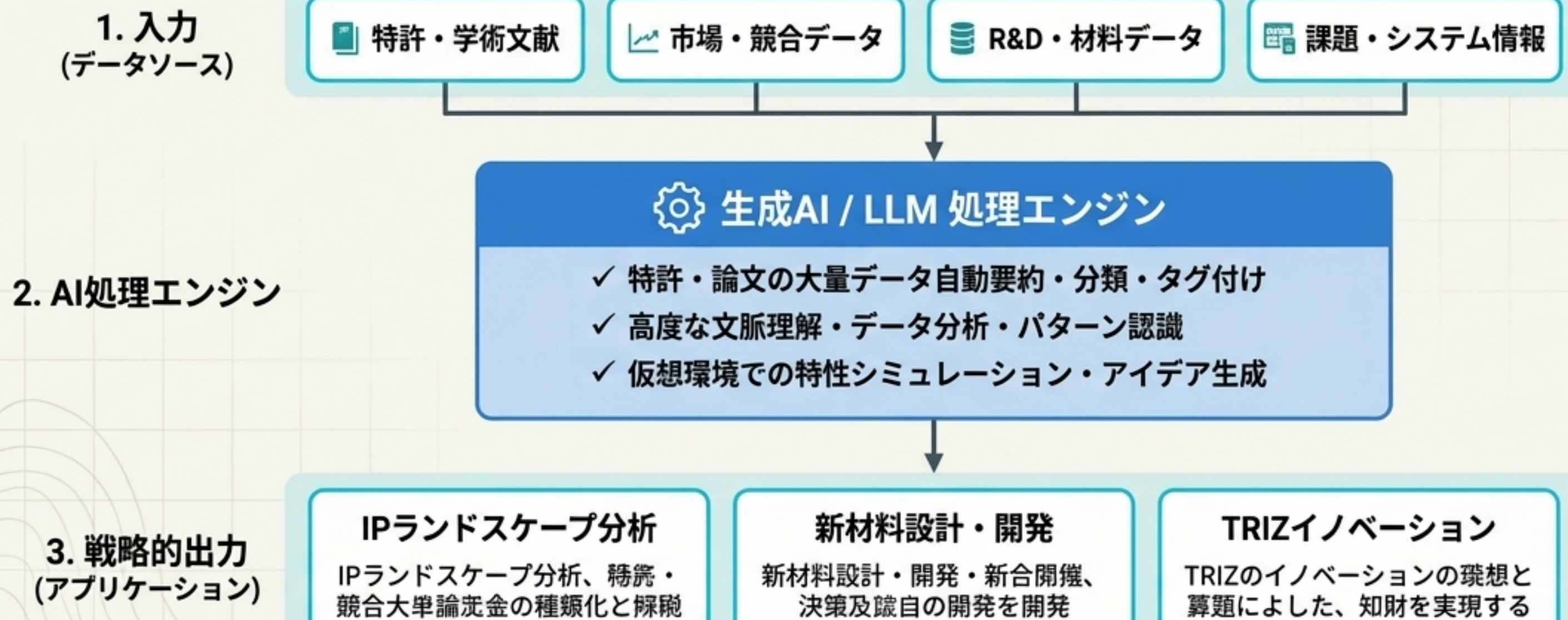
TRIZ（発明的問題解決理論）x AI



物理的矛盾の解決において、AIが分離原理を提案し解決策を大量生成（人間とAIの協調プロセス）。

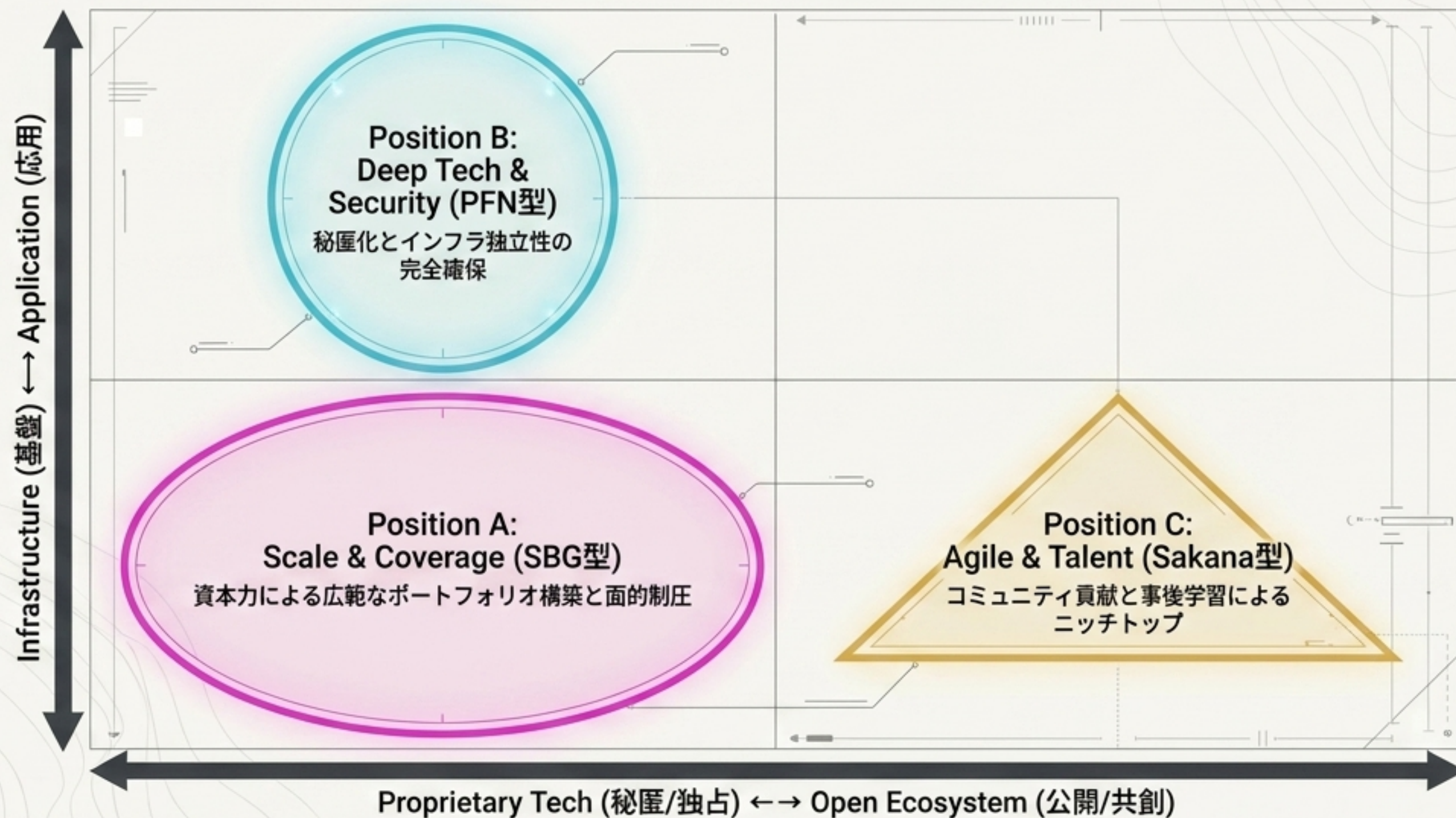
ARIZステップをAIがナビゲートし、アイデア生成速度と多様性が飛躍的に向上。

IP as a Profit Center: 次世代の研究開発・IPランドスケープ基盤



Key Takeaway: IPランドスケープ分析の高度化により、知財部門は「防衛（コスト）」から、新規ビジネス創出・M&A探索を主導する「プロフィットセンター」へ完全移行する。

Synthesis & Framework: 自社の知財ポジションの選択



自社の「事業ドメイン」と「資本力」に基づき、
AI時代の知財ポジションを再定義せよ。

Strategic Imperatives: 経営層・知財トップへの提言

- 1. ポジションの明確化 (Strategic Definition)**
特許という「排他権」に固執するか、オープン化による「人材獲得」を狙うか。
自社独自の知財戦略を早期に確定する。
- 2. ガバナンスの強固な構築 (Defensive Foundation)**
JPO「三極AIビジョン」に準拠。ELN（電子実験ノート）を活用し、
AI出力に対する人間の寄与を証明する「守り」を固める。
- 3. プロフィットセンターへの転換 (Offensive Shift)**
生成AIによる高度なIPランドスケープ分析を実装。知財・R&D・事業部門を統合し、
知財部門を「次なる事業機会の探索エンジン」へと昇華させる。

生成AIは単なる技術的流行ではない。企業の「決定権の移動」と「技術的主権」を巡る現代の経営課題そのものである。機敏な変革が、情報革命の果実をもたらす。